



体験型防災講話で意識を向上

自衛隊東京地方協力本部練馬地域事務所（所長 森田（2陸尉））は12月22日、練馬区石神井中学校の2年生216名に対し、防災講話を実施した。

講話の前段は、自衛隊の概要説明と防災士でもある所長自らの体験談を交えて自衛隊で働く意義等を説明した。2年生らは来年度の修学旅行で神戸を訪れる予定であり、自衛隊の実施する災害派遣活動の法的根拠を解説するとともに、約25年前に発生した阪神淡路大震災の概要を当時の写真や映像で紹介すると、生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。

後段は、震度7の地震が発生した直後の行動を択一形式で質問し、自らが考えることに主眼を置いた参加型教育を実施した。最後は、災害発生時には、まず自分で自分や家族を守る「自助」の重要性を訴えかけ、全員でゴブリンポーズと呼ばれる命を守るポーズを実習した。生徒は終始、積極的に取り組んでおり、防災に対する意識の高さがうかがえた。

練馬地域事務所は各種活動の制約を受けるコロナ禍においても処置を講じ、地域のニーズに応え、防衛省・自衛隊の活動について理解の深化が図れるよう、所員一丸となり邁進していくとしている。



渋谷区の防災YouTubeに出演

自衛隊東京地方協力本部代々木募集案内所（所長 小田（2陸尉））は2月20日、渋谷区に協力し、渋谷区のオンライン防災イベント「渋谷防災キャラバン」に出演した。

「渋谷防災キャラバン」は地域の防災に関する関心や防災意識を高め、地域の防災力の向上を図ることを目的に毎年開催している防災イベントで、令和2年度はオンライン上で視聴できるプログラムを中心に実施しており、「首都直下地震Part2」

災害に強いまちへ」をテーマにした第6回のオンライン配信において、代々木所の広報官 飯田陸曹長が自衛隊の災害時の対応等について紹介した。飯田曹長は、東日本大震災の際、原子力発電所の周囲1km圏内で行方不明者の捜索にあたった経験を紹介するとともに、首都直下地震等の災害発生時に自衛隊は、渋谷区と連携して情報収集を行い、当初、人命救助を重視した活動を実施することなどを説明した。

また、災害時を想定した渋谷区防災訓練に参加する等、平素から渋谷区、警視庁、東京消防庁等関係機関との連携を図っていることを紹介した。

この映像は、YouTubeチャンネル「渋谷防災キャラバン」において誰でも視聴可能であり、代々木募集案内所は、地域コミュニティとの連携をはかり、地域住民と自衛隊相互の信頼をより一層深めていくとしている。

